



Issue on May 1, 2019

もりこう

VOL.49

発行所：大森学園同窓会
 大田区大森西3-2-12
 大森学園高等学校内
 お問い合わせ：TEL 03(3762)7336(代)
 FAX 03(3766)0314
 Mail：info@moriko-kai.jp
 URL：https://www.moriko-kai.jp/
 発行責任者：大谷正勝
 編集責任者：広報委員会
 題字：山崎正男先生



母校創立80周年記念号



祝

母校創立80周年

本年は母校大森学園創立80周年の記念すべき年にあたります。
 もりこう会では恒例の総会につづき記念行事としてトークショー・祝賀会を開催いたします。
 あわせて本号では母校80年の変遷を様々な面から辿ってみました。
 在学時代を懐古されながら目を通して頂ければ幸いです。

総会・トークショー・祝賀会のお知らせ

日時

6月29日 土曜日

場所

大田区産業プラザPiO
 京急蒲田駅東口

総会

▼ 受付開始／午後2時
 ▼ 総会開会／午後2時20分

トーク
 ショー

▼ 開演／午後4時
 出演は以下の方々!

チャンカワイさん

お笑いコンビ Wエンジン

須山 貴史さん

本校卒業生 プロカメラマン

司会・
 進行

小森谷 徹さん

キャスター 新聞マイスター

祝賀会

▼ 開宴／午後5時30分
 ▼ 会費／3,000円

★参加の方は必ず事前手続きが必要です。
 詳しくは20ページをご覧ください。



母校創立70周年記念祝賀会の様子 平成21年6月27日開催

母校創立八〇周年をお祝い申し上げます

もりこう会会長 大谷正勝



このたび、母校大森学園高等学校は創立80周年の記念すべき年を迎えられました。同窓諸兄とともに衷心よりお祝いを申し上げます。

母校は、昭和14年【1939年】前身校の大森機械工業徒弟学校として産声を上げ、その後幾多の変遷がありました。昭和22年の学制改革にともない同23年、新制の高等学校（大森工業高等学校）に改めたことお聞きしております。

創立から工業高等学校時代を包含する60有余年は、徒弟学校設立の経緯から工業技術教育を通して広く社会の一翼を担う人材の育成に努め、地域社会や産業界の発展に貢献してきた歳月と云えるのではないのでしょうか。

この間、社会環境は大きく変わりました。とりわけ平成の時代に入り経済のグローバル化の進行、情報技術の飛躍的な進歩、少

子高齢化の進展は社会の各方面に様々な課題を提起し、その対応を迫ることとなりました。

そうした点を踏まえて母校は様々な面から熟慮を重ねられ、平成17年に普通科を新設、工業科との併設で校名を大森学園と改められたと推察しております。

時の経過は早いもので、普通科が男女共学となり既に10年余が経ちました。

私は「もりこう会」（以下本会と称す）の会合等で時折母校を訪ねますが、学舎でお会いする生徒の皆さんは日頃の学習成果の表れでしょうか、押しなべて明るく礼儀正しく何事にも一生懸命取り組んでいる様子がその雰囲気からも感じられます。これも建学の精神に基づき、80年に亘る校歴のなかで培われてきた良き伝統と、教職員の方々の日々のご指導の賜物と思っております。

母校の今日の栄える姿は、創立以来筆舌も及ばない困難厳しさを乗り越えひとえに学園の灯を絶やさずお守りいただいた、歴代の理事長校長をはじめとする先生方等関係各位のご尽力の賜物と、改めて感謝を申し上げる次第であります。

ついでには母校の創立80周年をお祝いして、次の90周年100周年に向けて更なる発展を願い、別記要領のとおり本会主催の祝賀会を開催いたしますこととなりました。

祝賀会には新旧教職員をはじめ関係各位をお招きのうえ、会員の皆様と執り行なう所存です。会員の皆様にはクラスメート、部活仲間、職場の同窓生など多数をお誘い合わせのうえ、奮ってご参加下さる様お願い申し上げます。

最後になりましたが母校大森学園はこの機にあたり、これまでに培われた良き伝統を踏襲しつつ建学の精神のもと、新しい時代に向けて前途ある若者の育成に引き続きご尽力頂きますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

★ もりこう会現況報告

昨年度（平成30年度）総会は役員改選期にあたり、改選の結果新たに平成年度卒業の3名の方が役員に選出されました。再選されました役員、新役員ともに本会発展のため精一杯活動に携わってまいる所存です。会員の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

昨年度総会後の懇親会場には、多くのOB会員とともにOG会員の姿が有りました。さらに9月恒例の学園祭では、会員の皆さんの交流の場として設けた「卒業生の広場」にも多くのOG会員が足を運んで下さいました。ご出席有難うございました。



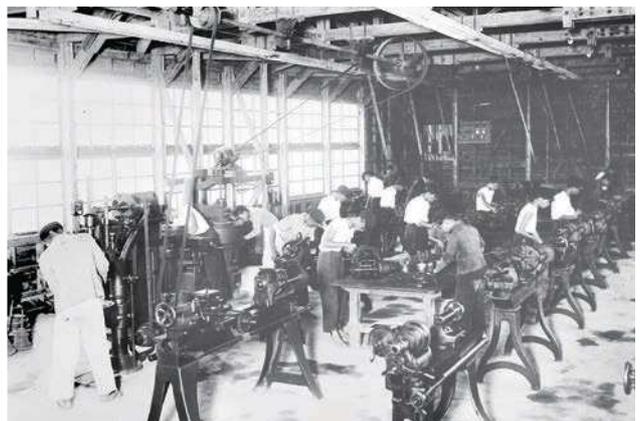
▲ 大森工業高校時代 図書室



▲ 大森工業高校時代 理科室



▲ 過去の実習設備



▲ 過去の実習風景

総会・トークショー・祝賀会に多数のご参加を

母校創立八十周年記念事業実行委員会 委員長 東野武雄



大森学園高等学校創立80周年おめでとう
ございます。

私は昭和47年3月に卒業し、早47年が過
ぎました。

その間に母校では、卒業の翌年度に情報
技術科が新設されたと記憶しております。
また、2005年には普通科が設置され、
校名が大森工業高等学校から大森学園高等
学校に変わりました。そして、2007年
から普通科の共学がスタートしました。

以上3件が私の知る母校の大きな変化で
した。

同窓会では、母校創立80周年お祝いと今
後の発展を祈念し、別記の要領で祝賀会等
を開催します。

この度はお世話になった恩師、現教職員等、
関係者多数をお招きし祝賀の宴を計画しま
した。万障お繰り合わせのうえ参加をお願
いいたします。

祝賀会では恩師や現教職員との懇談で在
学したころの振り返り、懐かしい友人との
再会で思い出に華を咲かせるなど、熱気
溢れる交流の場となるものと期待しており
ます。

役員一同、同窓生お揃いで出席頂きます
よう重ねてお願いいたします。

最後に、本件の推進にあたり母校ならび
に関係各位には、多大なるご支援ご協力を
頂きました。紙上をお借りして厚くお礼申
上げます。



▲ 母校創立70周年記念講演「海からの贈り物」

八〇周年を迎えて

校長 畑澤正一



「もりこう会」の皆様には日頃より本校の
教育にご理解ご協力をいただき感謝申し上
げます。今後も教育向上のため卒業生の方々
の多大なるご支援を期待するところです。

「昭和14年4月、大森地区中小機械業者62
工場加盟の大森機械工業徒弟委員会の経営
により大森機械工業徒弟学校を創立。校長
に米澤勇作就任。」学校要覧の学校沿革にこ
のように記されています。創立者の米澤勇作
先生が、産業教育の振興と若い産業人の育
成という高い理念のもと、創立以来本校を
築立った卒業生は、旧制工業学校、大森学
園中学校、大森工業高等学校、大森学園高
等学校を合わせて27,700名を超え、創
立者の決意の通り日本の産業発展に寄与す
る人材を数多く世に送り出すとともに、日
本の経済発展に大いに貢献してきました。

本校は平成31年度創立80周年を迎えま
す。平成21年の創立70周年から10年が経ち

様々なことがありました。特に平成23年
(2011)3月11日の東日本大震災は大変
な衝撃でした。新校舎建築は1995年の
阪神淡路大震災をきっかけに、建築気運が
一気に高まり、準備が進められて平成19年
には落成していました。その甲斐あって東
日本大震災では、帰宅困難者となった(他
校生徒も含めて)300人の生徒と教職員
が無事に一晩過ごすことができました(も
し旧校舎のままなら安全が確保できたかど
うか)。その晩、OBの方より沢山のおにぎ
りの差し入れがあり、とてもありがたいサ
プライズでした。この場を借りてお礼を申
上げます。学内には普通科をいかに軌
道に乗せるかが大きな課題でした。教員配
置やICT機器を含む学習環境の整備など。
その結果大学受験の実績も少しずつではあ
りませんが残るようになりました。

私立高校を取り巻く状況は、相変わらず
厳しいものがあります。少子化の影響で、
都内公立中学校卒業生数は、昭和61年度
15万7千人をピークに、現在7万8千人で
半減という状況です。しかしながら、いく
ら外因を並べても状況が好転するものでは
ありません。創立80周年を契機に多様化す
る社会情勢に対応しながらも、創立の理念
である、社会に貢献できる人材の育成と、
社会に必要とされる学校づくりを目指しま

す。進展するグローバル社会をリードできる人材撤出のため、教育内容の充実を目標に、教職員一同さらに精進を重ね、今後20年、

創立八〇周年記念に寄せて

教頭 安達毅



30年の発展を目指していこうと思います。今後とも皆様のなお一層のご理解ご協力をお願いいたします。

日。コンクールで金賞を頂くことはできませんでしたが、銀座パレードなど多くの発表の機会をいただき、二期期の日曜日は必ずどこかで演奏している様な日々が続きました。当時は学校内での合宿（教室に宿泊）も可能で、ゴールデンウィークと夏休みには妻も学校に宿泊して食事作りをサポートしてくれましたという良き思い出もあります。楽器を奏でる技術を獲得した生徒達は、自分たちの演奏で多くの人たちの心を幸せにすることができると知り、「一人に喜んでもらう」という気持ちで、「色々な問題に立ち向かい解決していく」原動力になるということを学びました。

私が「理科（物理）」非常勤講師として採用された昭和59年は体育館が完成した年です。以降専任講師を経て教諭となり、機械科一回、電気科二回、情報技術科一回、総合技術科一回卒業生を送りだし学年主任。二週目の学年主任時はちょうど普通科新設の年で試行錯誤の毎日となりました。その後、教務部長、教頭職を拝命し早いもので勤続35年目となります。

着任当時、学生時代からの夢であったブラスバンド部の顧問を任せていただき、「元気の良い男子校サウンド」を50名近くの部員達と一緒に作り上げるといふ充実した毎

平成9年からは、現校長畑澤先生の後を継ぎ生徒会顧問。校内では学園祭を仕切り、校外では地域貢献の一翼を担う役となりました。その年から始めたボランティア活動が「工業高校生の社会貢献」と言った視点でマスコミに取り上げられ多くの取材を受けることにもなりました。

「保守しやすい形とは？」という着眼や「保守することが仕事として成立する」という再発見があります。

『おもちゃを修理する』活動は、問題発見解決能力、環境問題に思いが及びます。「本当に良い物とは？」という疑問や「問題を正確に把握する事が最も重要」という生きる上での大切な手がかりを得ます。

「車いすを海外に贈る」活動は、世界の日本のことを考えることとなります。「廃棄せざるを得ない」仕組みや「途上国の現状に昔の日本を振り返る」ことを教科書以外で学びます。

今は休止中ですが「高齢者にPCを体験していただく」活動は、一対一で高齢者と時間を共有します。前向きな高齢者の方の知的好奇心に少なからず心が動きます。参加者も自分の話を聞いてくれた高校生に感謝してくださいます。

「トーンチャイムを演奏する」活動では、特養や保育園での演奏後に必ず握手会を実施します。特養では「その人の若かりし頃に思いを馳せる」時間を持ちます。保育園では「憧れのおねえさん」として立ち振る舞ってきます。

ボランティア活動だけでもこれだけの「学び」のチャンスがあります。これからの社会を生き抜いていく為にはどの様な力が求められ、何を「学んでおく」必要があるのでしょうか。大森学園では昨年末に有志が「国際理解講座」に参加。今年の初めには「認知症サポーター養成講座」を校内で実施するなど現代社会と向き合う「知の機会」を

設けています。

ちょうど10年前、卒業後も演奏活動を続けるブラスバンド部OBたちが仲間を誘って「創立70周年記念式典」で現役の部員たちと記念演奏をしてくれました。車いすを修理する技術を身につけたOBたちは活動場所を自己開拓して、現在も修理活動を継続しています。活躍する卒業生のみならず感謝の念を抱きつつ、生徒たちに「大森学園で学んで良かった」そう思ってもらえる様、日々努力していく所存です。



人と人の八〇年間の繋がり 副教頭 伊能隆晴



大森学園八十年。私はこの大森学園にお世話になって二十七年になります。大森学園の歴史から考えると、たった三分の一程度です。しかし、私の就職から定年までを考えたとき、もう三分の二は過ぎ去ってしまいました。早いものです。

私は現在、副教頭という立場であり、同窓会の役員の方々とお話をさせていただく機会が数多くあります。役員の方々は、私の親よりもご年配の方も数多くいらっしゃいますし、同年代、そして私の卒業生よりも若い方もいらっしゃいます。同窓会という組織ですから、当たり前のことであると言えばその通りです。諸先輩方々に当時の時代背景や、教職員も知らない話を聞かせていただくと、私の知らない時代も教職員も卒業生たちも、全一本の線のごとく繋がっていくのがわかります。とても不思議で、興味深いことです。これは私立ならではのいでしょようか。私立

は学校や教職員との関係が卒業後も長く続くことがとても素晴らしいことであると言われます。私もたくさんの卒業生を輩出し、その卒業生たちと現在でもおかげさまで付き合いがあります。このように私立学校である大森学園は、八十年間がしっかりと一本の線で繋がりが、歩み続けているのです。

今までの日本の歴史の中でも、我々が生きて活躍できる期間は短いのです。自分たちの同世代だけではなく、世代を超えた方々と交流し、過去を知ること、とても有意義であり、大変勉強になり、未来への糧になります。自分が学生時代、勉強として日本史や世界史を学ばなければならなかったときは、嫌で嫌で仕方なく、暗記をしなければならなかったと思っています。しかし、この歳になって歴史を勉強することは、とても大切であると思うようになりました。本当に私学っていいなと思います。私が大森学園の長い歴史の流れの中に、自分の身を置く期間は短いもので、ましてや力になれる期間も短くて微力です。しかし、この大森学園発展のため、残された時間を精一杯尽力し、後世に伝えていけたらと思っています。皆さんも同窓会に積極的に参加して、自分の時代だけで満足するのではなく、先輩や後輩たちから母校の歴史を知ってみることも、母校の発展と自分の成長のために良いかもしれませんね。

★ 法人の先生方

平成31年3月3日の卒業式開始前に撮影させて頂きました。



▲ 理事 佐藤 雄之 先生



▲ 副理事長 井上 皓司 先生



▲ 理事長 米澤 正倫 先生



● 撮影 須山 貴史



▲ 理事 末吉 辰 先生



▲ 監事 山田 吉修 先生

大森学園今昔 八十年の歴史を辿って



代目理事長 米澤 正倫 先生と
初代理事長像
制作 / 友沢正彦氏
昭和34年3月全日制電気科卒



初代理事長
故 米澤 勇作 先生

会報「もりこう」第47号 平成29年6月発行 特集より

大森学園のヒストリー

母校のこれまでの歩みは先輩諸氏ご存じのとおりですが、ここで概略を振り返ってみたいと思います。

母校の前身大森機械工業徒弟学校は、昭和14年（1939年）東京市大森区所在の中小機械工場経営者の協力により設立されました。その後昭和17年（1942年）には大森工業学校が開校、機械科を設置、機械科は第一本科（昼間部）と第二本科（夜間部）からなり、例えば第一本科の入学資格は尋常小学校卒で修業年限は五年でした。その後、前述の学制改革で、工業学校第3学年以下は義務教育の新制中学生となりましたので大森学園中学校と改めました。この中学校には、大田区立中学校がまだ少なかった事情から昭和22年度と23年度の2年間は、区立大森第四小学校から委託生徒を受け入れ、ともに肩を並べて学んだのとことです。

昭和22年5月には財団法人大森工業学校を財団法人大森学園に改め、同23年（1948年）4月には学制改革で大森工業学校は大森工業高校と改めました。同26年3月には財団法人大森学園は学校法人大森学園に改め、認可されました。

大森工業高校は全日制と定時制からなり、なかでも定時制は工都大田区ならびに近隣地区の工場等に勤める若人の学び舎として

長くその役割を担ってきましたが、志願者の減少により募集を中止、昭和51年度の卒業生をもって休校となりました。

一方、校舎は昭和20年（1945年）4月15日の空襲で焼失しましたので、森ヶ崎（現・大森南）の工場を借りて授業を行いました。昭和23年に現在地に戻りました。その後校舎は数度の改築を経て、近年では8階建ての教室棟やイベントホールのある講堂棟が新設され現在に至っています。会員諸氏、特に学窓を離れて多くの歳月を経た方々が現在の母校をご覧になれば、その充実した教育環境に驚かれるのではないのでしょうか。

平成に入り17年（2005年）4月には校名を大森学園高等学校と改め、現在設置する工業科（男子）、普通科（共学）には多くの生徒が学んでいることをご存じのとおりです。

東京の区部は、昭和22年地方自治法施行に先立ち同年3月15日に22区【後に23区】に再編され、地元大森区と蒲田区は一緒に5月の地方自治法施行で大田区が誕生しました。東京府と東京市は昭和18年に統合され東京都が成立していましたので、これにより母校の所在地は東京都大田区となりました。

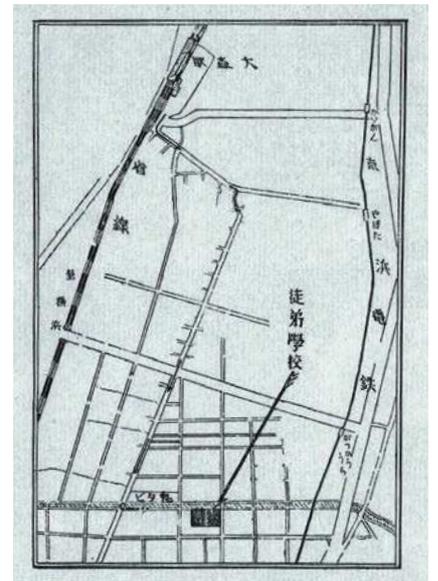
校舎の移り変わり



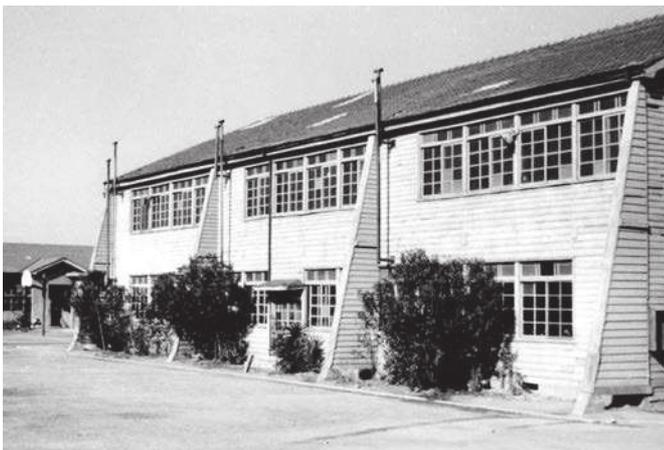
▲ 昭和14年 初代校舎 (旧大森機械工業徒弟学校)



▲ 昭和22年頃 森ヶ崎仮校舎 (旧大森工業学校)



▲ 昭和14年 当時の案内図



▲ 昭和30年頃の校舎 (旧大森工業高等学校)



▲ 昭和28年頃の戦後初の校舎 (旧大森工業高等学校)



◀ 昭和35年頃の
東南側

もりこう会・大森学園高等学校 沿革

年号(西暦)年	内容
昭和14(1939)年	○大森地区中小機械業者62工場加盟の大森機械工業徒弟委員会の経営により大森機械工業徒弟学校を創立 校長に米澤勇作就任 ○大森区大森3丁目283番地に新築の校舎竣工
昭和16(1941)年	○財団法人大森工業学校の設立認可さる 理事長に米澤勇作就任 ○大森工業学校の設置文部省より認可さる 校長に小山幹也就任
昭和17(1942)年	○大森工業学校開校、機械科を置く第一本科(昼)入学資格尋常小卒、修業年限5年
昭和19(1944)年	○校長に渡辺三郎就任
昭和20(1945)年	○戦災により校舎・設備全焼直ちに借用の仮校舎にて授業を継続
昭和21(1946)年	○電気通信科を設置
昭和22(1947)年	○学制改革により工業学校第三学年以下を大森学園中学校と改む
昭和23(1948)年	○学制改革により大森工業学校を大森工業高等学校と改む ○校長に山口萬就任
昭和24(1949)年	○旧校地に校舎一棟完成
昭和26(1951)年	○財団法人大森学園を学校法人大森学園と改む ○実習工場一棟完成
昭和27(1952)年	○電気通信科を電気科に改む ○木造二階建校舎完成
昭和28(1953)年	○同窓会設立総会の開催
昭和29(1954)年	○校長山口萬の死去により理事長米澤勇作校長を兼任
昭和32(1957)年	○鉄筋コンクリート平屋建て、強電・機械実習室完成
昭和34(1959)年	○上記校舎の二階部分を増築
昭和35(1960)年	○理事長兼校長米澤勇作教育功労者として文部大臣より表彰を受く
昭和37(1962)年	○校長に早坂朝太郎就任 ○校舎改修工事五ヶ年計画の第一期工事として鉄筋四階建校舎新築工事着工
昭和38(1963)年	○上記第一期工事による校舎(機械実習工場・体育館・普通教室8)完成 ○第二期工事鉄筋四階建校舎(普通教室一六)完成 ○第三種電気事業主任技術者資格検定第一次試験免除の認定を受く
昭和39(1964)年	○同窓会会報創刊号発行 初代会長 遠藤源吾
昭和40(1965)年	○理事長米澤勇作 多年教育の振興に寄与した功により藍綬褒章を賜わる ○校長早坂朝太郎 産業教育功労者として文部大臣より表彰を受く
昭和41(1966)年	○茨城県霞ヶ浦近郊に合宿用グラウンド用地29710m ² を取得 ○2代目会長 友野藤男
昭和43(1968)年	○校舎改修第三期工事による鉄筋四階建校舎(製図室・図書室・理科室)完成
昭和44(1969)年	○理事長米澤勇作 勲四等に叙せられ、瑞宝章を賜わる ○創立30周年記念式典を挙げる
昭和45(1970)年	○校長早坂朝太郎 勲四等に叙せられ、旭日小綬章を賜わる
昭和47(1972)年	○情報技術科を設置
昭和48(1973)年	○理事長に米澤正倫就任
昭和52(1977)年	○校長に野原隆治就任
昭和55(1980)年	○茨城県霞ヶ浦に合宿施設(446.5m ²)を新築
昭和59(1984)年	○鉄筋四階建実習棟(3532m ²)の新築工事完成 ○霞ヶ浦合宿所にトレーニング場(182m ²)を新築 ○第二体育館(体育館・格技場)1512m ² の新築工事完成
昭和61(1986)年	○校長野原隆治 勲四等に叙せられ、旭日小綬章を賜わる

内川から見た校舎



▲ 昭和27年頃

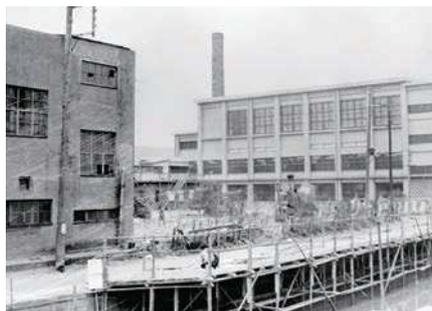


▲ 昭和30年頃

この時代の内川は海苔船が停泊しています



▲ 昭和30年頃



▲ 昭和38年頃 北側校舎建設開始頃



▲ 昭和42年頃

年号(西暦)年	内容
昭和63(1988)年	○霞ヶ浦合宿所に雨天練習場(345㎡)を新築 ○工事担任者試験一部を免除する学校認定校となる
平成元(1989)年	○創立50周年記念式典を挙行
平成2(1990)年	○理事長米澤正倫 校長を兼任
平成6(1994)年	○総合技術科を設置
平成9(1997)年	○理事長・校長米澤正倫 私立中学高校教育振興功労者として文部大臣より表彰を受く
平成11(1999)年	○創立60周年記念式典を挙行
平成12(2000)年	○校長に井上皓司就任
平成14(2002)年	○3代目会長 菊池良幸
平成15(2003)年	○国際環境規格ISO14001認証取得
平成16(2004)年	○校舎改築工事始まる
平成17(2005)年	○大森学園高等学校に校名変更、普通科設置 ○同窓会より新校旗贈呈
平成18(2006)年	○教室・管理棟(地上8階、地下1階10382㎡)完成
平成19(2007)年	○イベントホール・エントランス完成 ○部室棟・校庭・連絡通路完成により校舎改築工事終了 ○普通科共学始まる
平成21(2009)年	○新校舎落成記念式典・祝賀会を挙行 ○創立70周年を迎える ○創立70周年記念式典を挙行 ○母校創立70周年記念祝賀会を挙行
平成22(2010)年	○校長に畑澤正一就任 ○4代目会長 大谷正勝
平成23(2011)年	○新合宿所落成記念式典・祝賀会を挙行
平成26(2014)年	○前校長理事井上皓司 瑞宝小綬章を賜わる
平成27(2015)年	○工業科を設置
平成29(2017)年	○廃科(機械・電気・情報技術・総合技術)
令和元(2019)年	○創立80周年を迎える ○母校創立80周年祝賀会開催

内川から見た校舎



▲ 昭和60年頃



▲ 平成15年頃



▲ 現在の校舎(大森学園高等学校)



▲ 高架化工事開始後の西口及び踏切



▲ 大森町駅高架化完成

大森町駅(西側) 開業当初は設置されてなく、昭和30年代後半に地元住民や母校全日制生徒会・定時制自治会の署名活動により臨時改札口(朝夕のみ)として設置されました。その後平成に入り自動改札機導入と同時に西口(始発より終電まで営業)となり、高架化工事中は上り専用口になりました。

高架化前の大森町駅 平成10年代前半



▲ 大森町駅(東側)メインの駅舎



▲ 大森町駅(西側)

大森町駅は平成24年10月21日に高架化が完成しました。その後、駅周辺の整備も終了し現在に至っております。高架化された線路を走行する電車から母校をみる事ができます。卒業生の皆様、大森町へ平和島間ご乗車の際は是非母校をご覧下さい。

大森町駅の様子

● 正門



▲ 昭和30年代東側校舎増築後



▲ 昭和29年頃



▲ 昭和28年頃



▲ 昭和19年頃



▲ 平成19年頃



▲ 平成元年頃



▲ 昭和42年頃



▲ 昭和42年頃

● 校庭



▲ 昭和60年頃



▲ 昭和58年～59年頃



▲ 昭和42年頃



▲ 昭和30年頃



▲ 体育館



▲ 平成19年頃



▲ 平成19年頃



▲ 平成元年頃

● 航空写真



▲ 平成19年頃



▲ 昭和38年頃



▲ 昭和35年頃



▲ 平成元年頃



▲ 昭和50年頃

歴代校章の紹介

大森学園高等学校 現在の校章



大森学園高等学校
◀ 現在の校章 ▶
平成17年4月～



▲ 校旗 同窓会寄贈

旧大森工業高等学校 昭和31年から平成17年3月まで 岡田景次先生デザイン



▲ 校旗



旧大森工業学校 → 旧大森工業高等学校 昭和16年頃から昭和31年まで



▲ 当時の校舎入口の校章
(昭和20年4月15日までの校舎)



▲ 校旗

当時の方のエピソード

この時代の学帽は布製で野球帽のような形でした。この帽子には真鍮板の校章がついており、星の先端が尖っていたそうです。帽子の上に誤って座ったり、触れてしまうと刺さって痛かったそうです。

旧大森機械工業徒弟学校 昭和14年から昭和16年頃まで



◀ 大森機械工業徒弟学校
落成記念写真(写真)帳
昭和14年11月発行

祝賀会参加者には 歴代校章をデザインした手拭を記念品として配付します

懐かしの襟章コーナー

旧大森工業 詰め襟時代



▲ 学帽 校章



▲ 電気科 1年～3年 襟章

旧大森工業→大森学園 紺色のブレザー時代 平成元年から平成20年頃まで



▲ 初期の襟章



▲ 1年工業系



▲ 2年電気科



▲ 3年電気科



▲ 大森学園初期
紺色ブレザーから
新制服への移行期間

平成10年代の襟章

- 青丸が機械科 ○赤丸が電気科
- 緑丸が情報技術科 ○黄丸が総合技術科

現在 → 襟章なし

※襟章の情報が少ない為わかる範囲で掲載しております

番外編

部活動



▲ クラスの係



▲ 自動車部



▲ ワンゲル部



▲ 生徒会



▲ ブラスバンド部



▲ 写真部

歴代の校歌

大森学園高等学校 校歌

作詞 大田 倭子
作曲 小林三千三

一、潮の香り はるかな海よ
新しい希望 胸いつばいに
いざ 語り合おう 未来の希望
栄えある母校の 歴史を基に
豊かな心 知識への喜び
築き上げよう 大森学園

二、理想の光 先人の知恵
学び舎の窓に 青春の笑顔
いざ 勇気持て 未来を開き
豊かな実りを 社会に生かし
日本の力 広く試そう
はばたけ世界へ 大森学園

▲ 現在の校歌 (平成17年度より)

大森工業高等学校 校歌

作詞 勝 承夫
作曲 小林三千三

一、潮の光 寄せ来るところ
われらが学舎 希望みなぎる
見よ 新らしき時代をつくる
工業日本の 若き力を
不屈の精神 大森工高
栄ある学園 われらが母校

二、理想の星座かがやくところ
われらが研鑽 つねにたゆまず
見よ めざしゆく技術の精華
工業日本の 高きほまれを
不滅の青春 大森工高
はてなき躍進 われらが母校

▲ 旧校歌 (大森工業高等学校)

旧 大森機械工業徒弟学校 校歌

詩作 百田宗治氏
作曲 上野耐之氏



長校 米澤勇作氏



校旗

一、緑の繁葉蒼き汐
今湧上る青春の
高き誇にいざ起たん
吾等は日本の心臓部
二、祖國の譽父祖の業
今わが胸に受継ぎて
固き使命にいざ行かん
東亞の護りこの腕に
三、輝く前途燃ゆる雲
今建設の手を上げて
つよき決意に踏みいでん
涯なき曠野陽は昇る
四、榮ある文化實の土
今立起る産業の
わかき希望に鞭打たん
明日の覇業この肩に

昭和14年11月発行の大森機械工業徒弟学校落成記念寫眞(写真)帳に掲載されていた校歌です。
この写真帳は昭和20年4月15日の空襲で学校にあった物は焼失してしまいましたが、
奇跡的に卒業生の家であり学校に寄贈されました。

卒業生便り

大森工業学校入学の頃

昭和二十七年電気通信科卒業 神田晴喜



● 旧制中学へ入学

終戦直後（昭和20年8月）に京浜国道（現第一京浜国道）沿いに立つと、京浜電車（現京浜急行電車）の大森山谷（現大森町）駅の駅舎をはじめとして、磐井神社付近から六郷土手に至るまで焼け野原で、周囲には何も見当たりませんでした。

終戦翌年（昭和21年）大森第一国民学校（現小学校）を卒業して旧制中学の大森工業に入学しました。

入学時の大森工業学校校舎は、戦中の大森町大空襲（昭和20年4月15日）全焼損のため、森ヶ崎の焼け跡工場を借りて移り、そこが仮の学びの校舎となりました。新入学の校舎は工場跡なので、工場内を粗削り板で仕切りとした教室に、転がっている鉄板の切れ端をコの状に折り曲げて椅子代わりとし、当然机などは無く、工業学校としてのトイレなどの設備は皆無の、今日では想像し難い時代でした。

旧制中学1年生の鎌倉鶴岡八幡への遠足風景【写真1】を見ると、生徒の服装は殆どが戦時中に着用していた払い下げのものです。帽子は、戦闘帽を被っています。

2年生となった昭和22年に、学生改革があり新制中学が誕生して、森ヶ崎校舎近辺の大森第4小学校の男子生徒を、受託生として受け入れて新旧制が混在することになりました。1年経過した校舎は相変わらず土間のままですが、やっと教室に机と椅子が備えられました。旧制2年生の観音崎灯台への遠足風景【写真2】を見ると、服装はものの無い時代でしたので、殆ど払い下げの国民服姿です。

● 学制改革

戦後4年が経過して昭和24年には、内川沿いの旧校舎焼け跡地に、2階建屋の校舎が移築され、やっと床張りの教室の校舎となりました。旧制中学入学生卒業式は、移設後の新校舎で行われましたが、敗戦後の物の無い時代は続き、学生服姿がやや増えてきましたが、国民服姿が継続【写真3】します。

しかし、この頃になると大森町の街並みも変わり、焼け跡にはバラックの住居が散見されるようになってきました。

戦後の混乱期の学業風景を思い起こすと、クラスを班分けして校外で自主学習することになり、上野・秋葉原などの博物館や展示会場などにラッシュに揉まれて何日か



【写真1】遠足 鎌倉鶴岡八幡宮



【写真2】遠足 観音崎灯台



【写真3】新校舎（戦後最初の校舎）での卒業式

連続して通った思い出があります。さらに、全校生で大森駅山王通りの映画館（大森ハリウッド劇場）にて、西部劇映画の鑑賞会

が行われたこともあり、当時の混乱時代になかでの懐かしい思い出がよぎります。

定時制自治会について

昭和三十六年機械科卒業
同窓会顧問 菊池良幸



我が母校は昭和十四年の創立から、今年で八十周年を迎える。これまで会報には、教職員始め同窓会諸兄等々、多数の方々の想い出や近況報告が掲載されました。今回は特に定時制の自治会活動について、僅かな記憶の中からその一端を書いて見たいと思います。

全日制には生徒会がありました。定時制は「生徒自治会」と呼ぶ組織があった。

学校生活は学問を身につけると共に、クラブ活動を通じて、人間形成も大切であると教えられた。学生生活を有意義なものにする為に、各クラスのホームルームで問題があれば、皆んなで話し合い更に中央委員会に持ちより、最後に生徒総会で審議されました。

「昭和三十四年度 後期総会」

大製図室に於て四〇〇名余り、集合し総会が開催される中で、様々な問題がとり上げられて活発な議論が展開されました。

【主な議題として】

- 一、定高協活動について
 - 二、夜食の件
 - 三、風紀の取締りの件
 - 四、その他
- 【一般動議及び要望事項として】
- 一、暖房設備の件
 - 二、鉄棒の設立
 - 三、学校図書の出し
 - 四、掃除について
 - 五、専任教師の増員を要望



▲ 定時制自治会総会の様子 旧第一体育館

「定校協について」

「東京都定時制高校生徒会連絡協議会」を略して「定校協」と称し、昭和二十八年十一月に発足しています。当初は加盟十六校余りで夜間高校生の生活と権利を守る為の組織であった。

通学に対する社会的障害、例えば夜間出

身者の軽視や古い観念、残業の強制による通学の困難等があります。この様な問題に各校が協調して解決しようとしたのが定校協です。

「働く高校生の集い」

昭和三十五年一月、夜学生による「働く高校生集い」が渋谷公会堂に於て盛大に開催されました。総会では「国立夜間大学の設置」とか「夜学生への給食実施」を希望する声等々、議論が集中しました。

午後に入り、各校の合唱や、市ヶ谷高校の演劇「春雷」や放送劇、弁論、俳優の滝沢修氏の講演があり、映画「千羽鶴」が上映される等、賑やかな一日でした。

「夜間部専任教師増員要望」

夜間生が残業を受けようと急いで登校しても教師がいなければ始まらない、教師の方も昼の勤務がありましようが、遅刻や欠勤ありその為、自習時間が屢々ありました。そこで自治会と校友会の代表で、新学期の間もない三十五年四月三日、学校長と会談することになり「専任の教師を増員して下さい」と要望しましたが、先代理事長は創立当初からの苦労話を長々とされて、経済的問題とか人材不足との理由から増員は無理とのことでした。

「夜食のパンの値下げ問題」

特に食パンの値下げ希望の件につき、自治会として渉外部、厚生部と共に大森駅近くのパン屋に向いて交渉し、僅か乍ら値

下げをして貰ったことができました。

「森工通信」

自治会活動の状況や学生相互の親睦を計るとの目的で、限られた時間の中で編集部員の努力に依り、その後も発行が続けられたと思います。以上が定時制自治会の一期です。

最後に入学以来、先代理事長による、「決して急がず、焦らず、怠けず、順序よく」とこの言葉は生涯忘れられないことの一つです。自治会活動を通じて、諸先生始め多くの諸兄との出逢いを得たことは森工時代の良き思い出となっております。

(昭和三十六年三月、定時制卒業)

小生の誕生 (S13) そして高校生活 (S29) (S32)

昭和三十二年機械科卒業
同窓会相談役 大部 幸治



この度大森学園創立八十周年記念おめでとうございます。

小生・福岡で誕生、国民小学校最後の1

年生の時空襲に合い大分に疎開し、ここで終戦を迎える。あくる年川崎の地へその後変わることなく現在地に、ここから大森工業高等学校に当時入学試験はなく（中学からの内申書のみ）入学できました。勉強はそこそこに、機械実習に興味があり旋盤を使って電気スタンドを製作よく出来上がり褒められた記憶があります。部活は体が小さかったので少しでも大きくなろうと思いい柔道部に入り、毎日練習に励んでいました。当時学校には道場はなく大森警察署の道場で練習をしていました。その後実習棟脇の空き地に材木で四角いすのこを作り、そこに畳を20枚ぐらい敷き練習したが毎日畳の出し入れで大変だった。野球部は、キャッチボールしかできず時々どこかのグラウンドを借り練習をしていたようです。陸上部などは、学校の脇を流れる内川のほとりを橋から橋へぐるぐるとランニングをしていたのを思い出します。この内川では羽田周辺で採取したノリ舟が朝方帰って来ていい香りがしていました。

このころ高山先生・深野先生らと生徒5人ほどで一緒に富士山に登ったこと、また群馬県の大穴スキー場で初めて滑ったことが懐かしく思い出します。当時機械科3クラス電気科2クラスで小生は機械科でクラスは50数人おりました。クラスのほとんどが就職され進学したのは僅か3人だけだった。芝浦工大・日大・神大に進学しそのうちの1人が小生だった。もりこう会を通じ大森学園の発展を見届けることができ、大変うれしく思っております。

在学当時の様子と 大学進学への経緯

昭和三十五年定時制機械科卒 秋本貞夫

昭和三十年四月入学、当時の校舎と言えば、粗末な木造建物、入学時はこれが学校かと思われる程劣悪。今は何と幸せな事。当然現在の様な恵まれた環境ではない。真冬でも暖房もなく、裸電球の元、オーバー着用で講義を受けていました。終戦一〇年、経済・食料もとばしい中で誰も文句を言わず勉強していた、寒くて頭に入らず、早く帰りたいかった。夢を型に出来る技術の重さ、何が実るか分からない挑戦する価値があり、ロマンでもあった。学費も生活費も自ら賄う苦学生。月謝も払えず大変な思いをした。その頃当校も苦しい時代だった。理事長、諸先生方も大変苦勞の連続で相当過酷に見受けた大田区の機械工場主の協力して親もと離れた少年を幼きながら学校に通わせ育成した。旺盛な好奇心と貪欲な知識欲もあった。初代理事長は事業主をまとめ、本校の原点であると従弟学校教育に尽力され、大いに意義があり、誇りでもある。森工は高度経済発展の先覚者と自負している。どんな貧しさ逆境でも生き苦難に耐え抜く力を当校が与えてくれた。又仲間との共通もあり大きな絆だった。他校にない特別なものが心に残る恩師、人生の岐路に立った時、力強く後押ししてくれた先生方の出

会いが私の人生を大きく変えた。母校が原点で、恩師と友に恵まれた。感謝！同級生の進

学、S君、N君の芝浦工大、E君の東京理料の三人を目標に、志は高く、人生観の変化常に前向きに面白く生きたかった。河井先生からお前ならやれると、背中を押してもらった。卒業一年後、いろいろなアルバイトをやり、どうしても大学に行きたかった。一番学費の安い大学へ絶対に入るんだと決め、専修大学へ入学。佐成先生はたびたび勤務先に立ち寄って、アドバイスをしてくれたいし、深い人間性をもつ素晴らしい先生。二人の先生のお陰で、私は自信を持つてその後の人生を歩んでいくことができた。先生から受けた恩をOBとして、生徒の為の進路実現の手助けをしたいと思っている。

指定校推薦枠増を学校長・理事長へお願いした。母校と母校の手助けへ努力はおしめません。「信条」。教育は決して裏切らないし、人間成長へ不可欠。

最後になりましたが学園創立八十周年の年にあたり御祝いを申し上げます。
大森学園バンザイ、ありがとうございます。



今年の卒業式

今年の卒業式では卒業生の担任の先生は和服で参列されました。

写真は大森工業時代からいらつしやる和泉先生（右）

鳥谷（旧姓田中）先生（中）
石川（昌）先生（左）
平成31年3月3日 卒業を祝う会で撮影





校長 畑澤正一先生 文部科学大臣表彰を受賞

校長・畑澤先生は平成30年12月、私立中学校高等学校教育振興功労者として文部科学大臣表彰を受けられました。此の度の受賞は、先生ご自身の永年にわたる教育活動の実績評価であることは申すまでもありませんが、学園にとりましても誠に名誉なことであると存じます。受賞を心からお祝いを申し上げますとともに、今後益々のご活躍とご健勝を祈念申し上げます。



6月29日 土曜日

母校創立80周年記念

★ トークショー 出演者のご紹介 ★



チャンカワイさん お笑いコンビ Wエンジン

三重県名張市出身

現在のレギュラー

- NTV「世界の果てまでイッテQ!」水族館プロジェクト 不定期日曜19:58～20:54
- NHKEテレ「天才てれびくんYOU」
- NHK「シブヤノオト」他
- ドラマ出演
- NHK連続テレビ小説「半分、青い」(2018)
- NTV「Missデビル 人事の悪魔・椿眞子」(2018) 他



須山 貴史さん 本校卒業生 プロカメラマン 同窓会会計監査

神奈川県川崎市出身

1981年 大森工業高等学校(現在 大森学園高等学校)電気科卒業
 1983年 東京写真専門学校(現在 東京ビジュアルアーツ)卒業 同校研究室にて水中写真を撮り続ける
 1985年 株式会社水中造形センター入社月刊誌『マリンドIVING』『海と島の旅』で世界の海やリゾートを紹介する
 1989年 フリーランスとして活動始める。その後、幾度の個展を開催また、テレビ番組撮影のオファーを受けて積極的に携わる1999年 写真集『海へ。』2008年 写真集『海の祝祭日 Blue in blue』出版

主なテレビ番組

- 日本テレビ『たけしの元気が出るテレビ』『ガキの使いやあらへんで』『24時間テレビ』『イッテQ!』『世界番付』『モクスペ//世界ウルトラハンター』『海の日特番2017これぞニッポンの海』
- その他TBS『モーニングアイ』『炎の体育会TV』等他のテレビ番組にも携わる

司会・進行



小森谷 徹さん キャスター 新聞マイスター

群馬県桐生市出身

日本大学芸術学部演劇学科在学中から東京サンシャインボーイズや花組芝居などの人気劇団で活躍しテレビドラマやVシネマ、バラエティに進出、後にキャスターに転身。

現在のレギュラー

- TBSテレビ「ひるおび!」新聞マイスター
- TBSラジオ「ファイン!」パーソナリティ
- TBSラジオ「ジェーン・スー生活は踊る」スズメ小森谷さん

平成30年度 もりこう会 決算書 (自:平成30年4月1日~至:平成31年3月31日)

収入の部

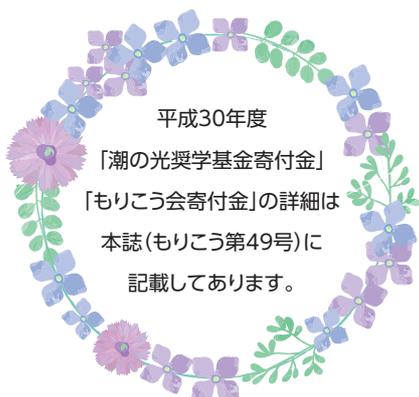
(単位:円)

科目	予算	決算	差異	摘要
①1年生会費収入	1,256,400	1,227,900	28,500	4,093人月分
②2年生会費収入	1,090,800	1,071,600	19,200	3,572人月分
③3年生会費収入	2,410,800	2,380,000	30,800	3,400人月分
④寄付金収入	300,000	399,000	▲99,000	83件
⑤受取利息収入	3,000	1,565	1,435	普通及び定期預金利息
⑥過年度会費収入	0	0	0	
⑦雑収入	0	0	0	
当年度収入合計	5,061,000	5,080,065	▲19,065	
前年度繰越資金	4,890,762	4,890,762	—	
収入の部合計	9,951,762	9,970,827	▲19,065	

支出の部

(単位:円)

科目	予算	決算	差異	摘要
①設備補助費	0	0	0	
②行事補助費	200,000	200,000	0	体育祭補助及び学園祭補助として
③課外活動補助費	300,000	300,000	0	校友会へ補助
④クラス会援助費	100,000	0	100,000	
⑤卒業記念品費	0	0	0	
⑥地域活動補助費	50,000	50,000	0	地域活動補助
⑦その他の補助費	100,000	0	100,000	
①会報発行費	1,400,000	923,369	476,631	㈱サンライズ印刷への支払他
②総会費	600,000	541,806	58,194	㈱マコトへの支払・落語会謝礼他
③卒業生広場	100,000	86,234	13,766	学園祭卒業生広場経費
④会議費	200,000	94,099	105,901	役員会開催費用
⑤ホームページ維持費	150,000	118,629	31,371	㈱KDDIウェブコミュニケーションへの支払
⑥交通費	300,000	326,000	▲26,000	役員会交通費として
⑦事務局費	50,000	18,452	31,548	通知書類発送切手代
⑧慶弔費	150,000	136,848	13,152	お祝い及び香典代
⑨キャリア教育運営費	200,000	179,000	21,000	
⑩拡大幹事会費	300,000	0	300,000	
⑪雑費	50,000	22,258	27,742	寄付金払込手数料他
予備費	100,000	0	100,000	
積立金				
①同窓会維持積立金	2,000,000	2,000,000	0	
②記念事業積立金	2,000,000	2,000,000	0	
当年度支出合計	8,350,000	6,996,695	1,353,305	
次年度繰越金	1,601,762	2,974,132	▲1,372,370	
支出の部合計	9,951,762	9,970,827	▲19,065	



同窓会役員紹介

平成30年度は役員改選の年にあたり、平成30年6月30日開催の総会で次の方々を選任されました。

- 会長 大谷 正勝 昭和36年 電気科
- 副会長 東野 武雄 昭和47年 電気科 (総務委員長)
- 副会長 山本 隆彦 昭和57年 電気科 (財務委員長)
- 副会長 渡辺 亮 平成14年 電気科 (広報委員長)
- 会計監査 須山 貴史 昭和56年 電気科
- 会計監査 秋葉 美典 昭和56年 機械科
- 常任幹事 勝島 憲三 昭和41年 電気科
- 常任幹事 井上 良男 昭和54年 電気科
- 常任幹事 十文字 幸雄 昭和54年 情報技術科
- 常任幹事 丸山 広 昭和57年 電気科
- 常任幹事 須山 健二 平成6年 情報技術科
- 常任幹事 浅沼 徹 平成7年 電気科
- 常任幹事 有賀 義孝 平成元年 電気科
- 常任幹事 西山 慎吾 平成4年 機械科
- 常任幹事 矢内 英彦 平成5年 情報技術科
- 常任幹事 根日屋 諒 平成19年 総合技術科
- 顧問 菊池 良幸 昭和36年 機械科 (前会長)
- 相談役 神 秀弘 昭和25年 機械科 (元副会長)
- 相談役 武藤 清一 昭和27年 電気科 (元副会長)



役員写真 平成31年3月3日卒業式で撮影

- 相談役 大部 幸治 昭和32年 機械科 (元副会長)
- 事務局 棚山 良一 昭和48年 電気科 (総務)
- 事務局 芳賀 勝則 昭和49年 機械科 (財務)
- 事務局 百瀬 浩一 平成4年 電気科 (広報)

編集後記

現在の創立記念日 四月十五日

平成十四年電気科卒業 広報委員長 渡辺 亮
同窓会活動にご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今号は母校創立八十周年記念号として、母校の歴史を中心に編集させて頂きました。また記念祝賀行事の関係上、いつもより一ヶ月早く発行しており、例年掲載している母校の情報が掲載できませんでした。次年度は掲載する予定です。

現在学校の創立記念日は四月十五日であります。この日は創立記念日であると共に昭和二十年四月十五日大森に大空襲があった日でもあります。残念ながらこの空襲で学校は開校当時の資料等と一緒に焼失してしまいました。この空襲は三月十日の東京大空襲に比べ亡くなられた方は少ないものの、大森町は壊滅的な被害がありました。焼失前の校舎は初代校舎であり、当時珍しい水洗トイレがある立派な建物だったそうです。今号では落成記念写真帳の初代校舎の写真や校歌・校章等を掲載させて頂きました。編集にあたり、当時の事を知る卒業生が少なくなっている事に気づきました。四月十五日は学校並びに地元大森にとっても大事な日であり、平和の大切さの思いを令和の時代になっても風化しないで欲しいと感じました。

結びに母校の発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

もりこう会ならびに奨学基金へのご支援ご協力をお願いについて

会長 大谷正勝
役員一同

もりこう会には、日頃より温かいご支援とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。本年もここに関係各位のご協力により、会報49号をお手元にお届けすることが出来ました。本会では、その他ホームページの運営、総会、懇親会の開催等など、様々な活動を通して母校の現況、卒業生間の交流、消息等をお知らせ致しております。これからも、会報やホームページの活用と総会、懇親会などを通して、情報提供や各種の催しに積極的に取り組んでまいり所存です。今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。さて、本会では会報送付時、本会へのご寄付ならびに「潮の光」奨学基金へのご支援をお願いしておりますが、これに対して会員の皆様からは、毎年温かいご支援、ご協力をいただいております。ここに改めて皆様のご厚情にお礼を申し上げます。就いてはこの度も、経済社会環境の厳しい折、誠に恐縮ではございますが、倍旧のご支援ご協力を賜りますよう、役員一同心よりお願ひ申し上げます。

★ 卒業生の皆様へ ★

母校創立80周年記念 総会・トークショー・祝賀会のご案内

- 日時 / 6月29日 土曜日
- 会場 / 大田区産業プラザPiO
京急蒲田駅東口下車 徒歩3分
JR・東急蒲田駅東口下車 徒歩13分
東京都大田区南蒲田1丁目20-20
- 受付 / 開始 午後2時
- ★ 総会 / 開会 午後2時20分 終了 3時40分



★ トークショー / 開演 午後4時 **出演は以下の方々!**



チャンカワイさん
お笑いコンビ
Wエンジン



須山 貴史さん
本校卒業生
プロカメラマン



小森谷 徹さん
キャスター
新聞マイスター



司会・進行

★ 祝賀会 / 開宴 午後5時30分 終了 午後7時30分
会費 3,000円

**参加の方へ
お願い**

今回の行事は必ず同封のはがきにて出欠連絡をお願い致します。
会費は郵便局又は郵便振替払込用紙対応のATMにてお支払い下さい。
同封の払込用紙をご使用下さい

返信はがき投函・振込期限

2019年5月30日(木)までにお願い致します

※準備の都合上、当日欠席されても会費の返金は致しませんのでご了承下さい ※自動車でのご来場はご遠慮下さい

令和元年度 母校「学園祭」は9/21(土)・9/22(日)の2日間開催します
同窓会では卒業生の懇親の場として「卒業生の広場」を設ける予定です
お越しの際には是非お立ち寄り下さい (校舎及び近隣には駐車場・駐輪場はありません)
詳細は9月上旬に同窓会HPに掲載する予定です